

連載 3

小学校との連携を視野に入れた体験型共同学習プロジェクトの展開

テーマは1か月かけて次のような流れで展開されます。

1. 第1週： 具体的に説明してあげる

- ・何をして遊ぶのか？目標をはっきりさせる。

子どもたちがよく知っている、大きさの考え方に関係のある楽しい活動を通して、身近な目に見えるものを創り出すことを意図しています。

子どもたちは「大きいと小さい」の本の中の、大きさの考え方を大きい動物と小さい動物のペントマイムを通して復習します。また、子どもたちは、3匹のくまちゃんの本とポスターに関する大さに関係のある問いかけに答えます。





「普段から使っている身近な物を使って進めていきました。絵本の大・小を用意し、どっちが大きいと思う？の問いかけに「こっちが大きいに決まってるやん」と普段から使っているものは簡単に答えることが出来ていました。比べていくうちに一人子が「先生こんなんもあるで」と普段遊んでいる玩具を持ってきて皆に見せます。「どっちが大きい？」とみんなに聞ききました。すると「ん～こっちのほうが大きい」と大きさのクイズに答えていました。次は部屋の中で大きい、小さいもの探しをして遊びました。子どもたちは自分より大きいものを「大きい」と考え、机やテーブルを「先生、大きいの見つけた」と教えてくれました。」
(3才児担任の言葉)

2. 第2週： 具体的に体験させる

- ・明確な実例を見せて、感覚的な体験をさせる。

新しい学びが具体的で実践的な活動とともに、子どもたちの身近なことから始まります。子どもたちに小さい、中ぐらい、大きいという新しい大きさの考え方を紹介するのに、3匹のくまちゃんのお話を使います。子どもたちは、これらの考え方をお話することや、大きさによって品物を一致させることに使います。ままごとコーナーのお皿を比べています。どちらの絵本が大きい、小さいと比べています。赤ちゃんぐまに洋服を選びながら、「大き過ぎる」と「小さ過ぎる」と言う概念も探り子どもたちは、大きさを基にして、日用品を分類して一致させます。



「部屋には三匹のくまに出てくる大中小の3匹のくまと三種類の大きさのベッド・椅子等を用意しておきました。ままごとコーナーで遊んでいる様子を見ているとそれぞれに合った椅子やベッドの大きさを見つける為に一つ一つベッドに人形を寝かせています。

「赤ちゃんやから小さいのやな」とサイズに合ったものを見つけられる子もいれば無理やりお母さんぐまを小さい椅子に座らせている子もいて各個人で大きさの認識の理解に違うことに気付かされました。そこで保育士も一緒に遊びの中に入り「あれ？小さすぎない？お父さんはどのベッドがいい？」と聞いてみると「大きいベッド」と答えられるものの、大きいベッドがどれかわかっていない様子だったので「どうしたらいいんやろ」と聞くと、「比べてみたらいいんちゃう」と意見が出たのでベッド同士を並べて比べてみることにしました。そうするとわからなかった子も「これが大きかった」とお父さんのベッドを見つけることが出来ました。」(3才児担任の言葉)

3. 第3週： 視野を広げてあげる

- ・同じところと違うところを見つけさせ体験を言葉にさせる。

子どもたちの学びが広がります。子どもたちが新しい 学びをすでに知っている考え方に結びつけ、関連のある特徴を調べることで抽象的な理解を始めます。

子どもたちは、保育室の中からテディベアーより大きい物や小さい物を見つける大きさ探しを続けることで、この週の学習を始めます。子どもたちは、「大きい、より大きい、一番大きい」ということを決めるのにテディベアーを相対的な大きさによって比較します。

品物も小さい物から大きい物へと順に並べます。子どもたちは、家から自分の縫いぐるみを持ってきて、共同で使い、相対的な大きさを比較します。子どもたちが、一番小さい物から一番大きい物へと順に並べることの手助けとして、保育室のボールも分類します。この週は、子どもたちを身長によって順に並べることで終わります！



「日用品で大きさも比べて分類してみることにしました。同じスプーンでも大きさの違うものを用意し、方向付けで出てきた床の大小の四角のマスキングテープを使い分類しました。写真には写ってないんですが小さい四角の前には赤ちゃん、大きい四角の前にはお父さんぐまを置いていてどっちが大きい四角か分かりやすくする為と置く所を明確にしました。一人一人分類していくことによって大きい・小さいを理解している子どもは簡単に分類でき、物が変わると大きさがわからなくなってしまう子の差ははっきりわかりました。分類した後でどうして赤ちゃんは小さいものを使うの？お父さんはどうして大きいものなのか話しあいました。「体が大きいから大きいもの使うねん」「赤ちゃんは小さいから大きいのが持たれへん」「家でもお父さんは大きいのが使ってるで」と色々な答えが返ってきました。理解が難しかった子もみんなの話を聞き家での様子を思い浮かべることで理解する子もいました。」（3才児担任の話）

4. 第4週： 理解を深め抽象的な理解に誘う

- ・他の経験と比べさせる。イメージで表現させる

新しい様々な方法で、子どもたちの学びを応用するために、問題解決や抽象的な表現を使用するよう、子どもたちに挑戦させることを意図して設定します。

子どもたちは、大きさや長さを調べるために、相対的な大きさの概念を使って問題を解決します。また、子どもたちは、3匹のくまちゃんのお話を劇的に表現して、お話の中の大きさの概念を再表現します。異なった種類の素材を使いながら、子どもたちは、多様な特質を使って分類し、素材を順に並べます。



子どもたちは、様々な素材を利用して、大きさや長さに関する問題を解決します。親指姫のお話を読んで、その後、具体的ではない距離感のある質問に答えて、大きさに関するなどなども解きます。



「大中小の大きさだけではなく5つ程の個数を小さいものから大きいものに並べていきます。積木は順番に比べていくことで簡単にできました。箱でも小さいものから大きいものの順番に並べていきましたが全て同じ箱で統一できていなかったなので奥行き、深さ、高さ、幅など違うので比べにくくなり、反省する点でした。難しくなってしまいましたが、子ども達同士でどうしたらわかるか話し合いました。「重ねたらわかるんちゃう??」「高さを比べたら?」と物を比べながら話し合うなかで、下を揃えることで大きさを比べることになりました。「あっこっちのほうが大きかった」「じゃあこの箱はこっちやな」と移動させていき順番に並べることが出来ました。」(3歳児担任の言葉)

〔写真は大阪市子ロバ保育園実践より借用しました。〕

連載 終わり